

## 大分県立看護科学大学 第1回看護国際フォーラム

## 「看護実践の経済的側面」( Dr. Park Jung Ho の講演から )

三笥 里香 Rika Mitoma, R. N.

大分県立看護科学大学 基礎看護科学講座 看護アセスメント Oita University of Nursing and Health Sciences

1999年11月8日投稿, 2000年6月7日受理

## キーワード

看護経済、看護サービスに関する費用、看護料、生産性、支払い制度

## Keywords

nursing economics, nursing cost, nursing fee, productivity, reimbursement system

## はじめに

今回の国際フォーラムは、「看護の自律に向けて：21世紀へのチャレンジ」をテーマとしている。この中で、ソウル大学校看護大学の学長である朴貞浩先生の「看護実践の経済的側面」をテーマとした講演は、「看護を経済的に評価することが看護専門職の自律を確立するために21世紀に向けての重要な戦略である」という提言から始められた。

## 看護を取り巻く環境と看護の生産性

看護の経済的評価に取り組むためには、まず看護を取り巻く環境を捉えることが必要であり、現在から21世紀に向けての社会の変化が看護界にもたらす影響について次のように述べられた。

今、我々は、政治、経済、社会ともに21世紀への大きな変革の中にいる。看護を取り巻く環境の変化とこれに関連する保健・医療の変化が看護界にどのような変化をもたらすか、ということを考えなければならない。冷戦の終結や権力の分散化といった政治的な変化によって、各国の経済は自由競争へと突入している。このような環境の変化は、看護職が政策決定に参加するきっかけになった。現在、アメリカを中心に、日本・韓国を含めほとんどの国が診療報酬制度を採用しているが、一方、今日この制度は社会経済を大きく圧迫することになっている。この事態を改善するためには保健医療における生産性の問題に取り組まなければならない。

そもそも生産性は、投入した資源に対する産出量の割合という意味をもつ概念である。看護における生産性という場合には、資源の無駄を最小限に留めて看

護としての結果を出すことである。生産性を考えるうえでは、結果を出すために要する費用を正確に測定する必要があるが、看護サービスに関する費用を確定することは容易ではない。そこで、その費用を算定するために、患者の分類システムの開発、看護ケア時間の測定などが行われている。生産性を高める戦略として、看護提供方式(nursing care delivery system)の改善、看護の質的評価システムの改善、クリニカルナーススペシャリスト制度の確立、有効な看護情報管理システムの構築、看護サービスの価格算出(nursing costing out)等が挙げられる。看護の生産性を高めるためにより効果的な方法を探取しなければならないが、その際、重要なことは看護ケアの質を保証することである。

## 看護の経済的評価への取り組み

看護サービスに関する費用(nursing cost)は総医療費に含まれ、単独のものとしては算定されていない。何を根拠として看護サービスに関する費用を算定するのか多方面から論議されているが、少なくとも患者に提供された看護行為に対する直接的な経費として算出する必要がある。

米国では、看護経済学者のコブナー(ニューヨーク大学)が1967年に、看護料(nursing fees)を一般医療費と区分して算出しなければならないという提案をした。1980年代初頭より、DRG(Diagnosis Related Group: 疾病診断群)による支払制度の導入が検討され始め、看護における患者分類システムや看護サービスに関する費用算出方法等とDRGとの関係を扱う研究が多く行われるようになった。

韓国は1970年に、日本の診療報酬制度ならびに保険制度をほとんどそのまま導入した。導入した時点での看護料は当時の日本と同様に、室料と看護料を合わせた入院料という項目で支払われていた。その後、1980年代後半から韓国における看護の経済的評価に関する研究が本格的に取り組みられ、その結果1988年には看護料は独立し室料と分離された。韓国政府は経済改革を重ねて、1997年から韓国DRG(KDRG)試案を一部で試行している。韓国DRG(KDRG)において看護料をどのように算出するか、という研究に取り組む一方で、標準化した看護行為による看護料を算出するための研究も行われている。

#### 韓国の現状と今後の課題

演者は、教育と臨床の統合を目指した教育理念をもつソウル大学の教授とソウル大学病院の看護部長を兼任されたという経験や臨床看護師協会の会長という立場から、韓国DRGに基づいた看護料の算出法、患者分類システム、看護原価計算等の様々な研究を行っている。このような経験を踏まえて、看護サービスに関する費用を算出することは重要であるが、そもそも看護サービスに関する費用を構成する要素は何であるかを明らかにし分析するという研究も行っていかなければならない、と述べられた。

また、現代(Hyundai)や三星(Samsung)といった韓国における財閥が病院を直接運営している現状も紹介された。そのような医療者以外の者が病院経営を行う場合には、費用抑制が看護の質にどのような影響を与えているかについて、それらの経営に携わる者が十分には理解していないという問題も指摘された。看護の質を維持しながら限られた資源をどのように効率的に使うか、という課題には看護管理者が中心となって取り組む必要がある。看護が消費単位としてではなく、収益をあげる専門職として認められるためには、看護職が実力をつけ、それに見合った権限を獲得することが必要であることを強調された。

そして、看護界全体で看護の経済的評価という問題に対して根拠に基づいた効果的な論議を続けながら、21世紀にはその結果を政策に反映させていかなければならないと講演を締めくくった。

#### おわりに

今回の講演は、看護の経済的評価の方法を追求し、看護の生産性を高めていくことの重要性を改めて認識する機会となった。

看護に対する経済的評価についてどのような取り組みがこれまでになされてきたかを知ることで、看護サービスについてはそれを提供するために要する費用を確定することが難しく、何を根拠として価格を設定するかについての結論もまだ出されていないことがわかった。

現在、看護料の設定はその国の医療保険制度・診療報酬制度によって異なっており、それぞれの国の政治、経済、文化などにも少なからず影響されている。看護の経済的評価に取り組むためには、背景にある環境や議論の前提となる様々な事項に関わる基本的な相違、そこまでに至る長い政策的経緯等の文脈を顧みることが必須である。それらを包括して研究を進めながら、看護の質を維持し生産性を高める戦略をたてる必要があることを学んだ。

---

#### 著者連絡先

〒870-1201  
大分県野津原町廻栖野 2944-9  
大分県立看護科学大学  
看護アセスメント学研究室  
三笥 里香  
mitoma@oita-nhs.ac.jp